

日本自殺総合対策学会 2024年秋季講演会

～“家族という困難”を考える～

庇護の象徴ともいえる家族であるが、まさにその家族との確執によって孤立し、心の健康を蝕まれていく人たちが少なからず存在する現実から目を背けるわけにはいかない。

また、たとえ親密な関係にあっても、過干渉や過保護といった共依存には周囲はもとより当事者が自覚しづらいという側面があり、問題が複雑化する傾向にある。

本講演会では敢えて、こうしたリスクが潜在する“家族という困難”に焦点を置き、機微なテーマであるゆえに対応が遅れがちであったこの問題にいかに取り組むべきか、学術研究や現場での活動から見えてきた課題について論じ合う場としたい。

2024年11月27日(水) 14:00-16:00

内容 講演1 『家族葛藤と自殺：精神医療の現場から』

田村 毅（精神科医）

講演2 『社会的養育のもとで育ったこども・若者の
18歳以降サポートの現場から（仮）』

福本 啓介（社会福祉法人 白十字会林間学校 あすなる
サポートステーション 所長）

森 丈弓（甲南女子大学人間科学部心理学科 教授）

コメン

テーター

渡辺 ゆりか（一般社団法人 草の根ささえあいプロジェクト
代表理事）

コーディネーター 岡 檀（統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター
特任准教授）

（敬称略）

開催方法 Zoomウェビナーによるオンライン開催

参加費 会 員： **無料** 、 非会員： **無料**

（どなたでもご参加いただけます。会員の方には動画のオンデマンド配信を予定）

申込方法 右記のQRコードまたは学会ホームページよりお申込みください。

https://jscsc.smoozy.atlas.jp/ja/lecture_2024



申込期限 2024年11月24日（日）

本講演会は、JST-RISTEX「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」の研究開発プロジェクト「行政・NPOの孤立・孤独対策現場知を支援する総合知に基づく学術体制構築」の一環で開催いたします。

主催：日本自殺総合対策学会

共催：情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター（予定）

後援：厚生労働省

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター

●田村 毅（たむら たけし）氏 ※講演者

思春期・家族精神科医。田村毅こころの診療所・相談室所長。筑波大学医学専門学群卒業、筑波大学大学院博士課程修了（医学博士）。ロンドン大学とTavistock Clinicで家族療法を学ぶ。東京学芸大学に19年奉職した後、2011年に早期退職し、都内での開業を経て、現在は群馬県高山村に移住して自由診療の精神科クリニックを開業。思春期と家族の精神科を35年以上たずさわる。日本と世界における家族療法の一人者。アジア家族療法アカデミー(Asian Academy of Family Therapy)会長。



●福本 啓介（ふくもと けいすけ）氏 ※講演者

社会福祉法人白十字会林間学校あすなろサポートステーション所長。東洋大学文学部教育学科卒業、社会福祉士・精神保健福祉士。大学卒業後、通信制サポート校教員、児童心理治療施設ケアワーカーを経て2015年から現職。家庭と地域を分離され、社会的養育のもとで育った多くのこども・若者と、面談・同行・訪問等の相談支援等を通じて関わる。年30回程度の講演活動を行う他、神奈川県社会的養育推進計画改定に係るWG（自立支援）座長、相模原市社会的養育推進に関する検討委員、関東地域社会的養護自立支援拠点事業連絡会副代表等を務める。日本子ども虐待防止学会会員。



○森 丈弓（もり たけみ）氏 ※コメンテーター

甲南女子大学 人間科学部 心理学科教授。臨床心理士、公認心理師。法務省仙台少年鑑別所・盛岡少年鑑別所・山形少年鑑別所・八王子医療刑務所法務技官、統括専門官（考査担当）、いわき明星大学人文学部心理学科准教授を経て現職。法務省で、少年の再非行防止に資するための調査ツール「法務省式ケースアセスメントツール（MJCA）」の作成に携わる。

○渡辺 ゆりか（わたなべ ゆりか）氏 ※コメンテーター

一般社団法人 草の根ささえあいプロジェクト 代表理事。2004年より就労支援の道へ。2011年4月「草の根ささえあいプロジェクト」立ち上げ。2019年から働きたい若者と企業をつなぐ名古屋市若者・企業リンクサポート事業所長。日本自殺総合対策学会理事。

◎岡 檀（おか まゆみ）氏 ※コーディネーター

統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター 特任准教授。自殺、介護などの社会問題に注目したコミュニティ研究で知られ、コミュニティの特性が住民の心身の健康に影響を与える要因について質的・量的混合アプローチによる多角的な研究を行う。著書に『生き心地の良い町 この自殺率の低さには理由がある』（講談社）他。日本自殺総合対策学会理事。

